かのうハウスのこれから

～だいろとの関わり　未来の越後曽根～

私たちは地域の古民家で「これからの地区センター」に合うような活動を行ってきた。まず町歩きを行って、だいろ（かたつむり）が様々な場所に使われいることから街とだいろの深い関係に気づき、シャッター商店街となり人が集まる場所が少ないことを知った。私たちは古民家を地域の方々が気軽に訪れる憩いの場になるよう改修作業に力を入れた。作業では畳敷だった店を板張りにし、入りやすいよう出入口の色を変えた。また囲炉裏を作りゆったりお喋りできる空間にした。バリアフリーを意識してスロープを作った。図書コーナーとして使うために押入れを解体し、壁を漆喰で塗った。現在使用している照明は、私たちが製作した作品だ。活動を町の人に知ってもらうため、曽根の方に投票してもらい、上位のデザインのものを温かみのある空間になるように一つ一つ丁寧に作った。また、だいろを使った作品を展示する「だいろアート展」を開き、来場者に感想をもらい、次のイベントに繋げることで地域の方と交流を深めている。自分たちの勉強のために、町づくりを行っている建築士の方をお招びし講演会を開催した。まち再生の重要性と核となる場所の大切さを教えて頂き、自分たちの活動を評価してもらった。今後は様々な方の意見を取り入れ、皆が集まり、誰もが入りたくなり、交流できる「場」になっていくセンターに私たちの手で変えていく。私たちは古民家を「かのうハウス」と名付け活動を続けていく。

たくさんのお客様が来てくださり
だいろアート展は大成功だった。

町には、だいろ（かたつむり）をモチーフとしたロゴがマンホールや施設に多く使われていることから、だいろと曽根の深い関わりが感じられる。そして、1級河川である西川を中心とした水路が広がっており、橋が何本も見かけられていることから、かつては人の往来が活発であったことが伺える。また、曽根の独特の文化や歴史も非常に特徴的であり、地域の人にお願いして踊っていただいた岩室甚句もそのうちのひとつだ。「だいろ」の歌詞がある甚句は、伝統的な音楽と舞踊は、紡がれて来た人々の思いを確かに感じられるものだった。地域の人々は高齢者が大半だが、明るく気さくで、機会があれば積極的に活動へ参加してくださる人が多い。しかし船や+鉄道の需要の低下や車の普及によって、ストロー現象が加速し、人口が減少している。そのため、町の中心部にはシャッターが降りたままの店が並んでおり、活気は感じられない。かつての町の賑わいも今では見られないといったのが曽根の現状だ。だが、最近では若者が店を開いたり、商店街で協力して、ポイントカードを作ったりと町の活性化と若者の呼び込みを図り、曽根の町自らが主体となった新しい取り組みも見られる。

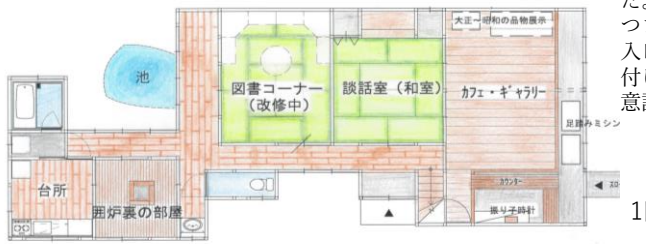
壁
　割れていたり漆喰が剝がれている所、汚いところを塗り直した。馴れない作業で塗るのに苦戦したが、白くて綺麗な壁になった。

入り口
　サッシの無機質な色を塗り替え、心理的ハードルを下げ、人々が入りやすいようにした。
つまずきやすかった出入口付近にスロープを付け、バリアフリーを意識した。

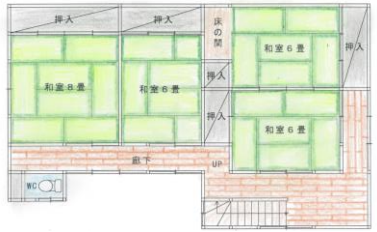
カウンター
　店をやっていた時に作業台として使っていた厚い杉板をカウンターとして再利用した。

床
畳敷きからフローリングに変えたことで広くなりイベントを開催できるようになり一体感が生まれ温かみも増した。

図書
　静かな空間である事を生かし元々押し入れだった場所を壊して、本棚を作り、思いおもいくつろげる落ち着ける空間にしていきたい。
　本棚には地域の方々から頂いた本や、図書館から借りるシステムを利用した図書などを置く予定。

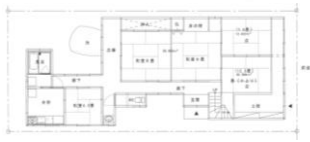


1階平面図



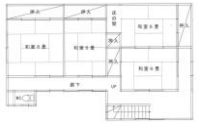
2階平面図

池
金魚が数匹泳ぐ小さな池。
今は池のまわりの雑草を抜き、本格的な作業はこれからだが、苔や水草で緑を増やし、池を見ながらリラックスできる空間にしていきたい。



木造軸組み工法
リノベーション
1階床面積　115.93㎡
2階床面積　77.84㎡
延べ床面積 193.77㎡

カフェ&ギャラリースペース
　地域の方が気軽にあがれる空間にするために畳からフローリングにし、かのうハウスに元々あった歴史を感じられる足踏みミシンやラジオを展示してカフェのような空間にしました。また、だいろアート展を開催し地域の方がより行きたいと思えるようなイベントも不定期に開催している。



2階
まだ手付かずだがいずれはゲストハウスやコワーキングスペースなどに活用して行きたいと考えている。

ミシン
かのうハウスが服屋だったころに活躍した足踏みミシン。

囲炉裏
復活したことで地域住民の方々との交流の場として生まれ変わった茶の間。

照明
温かみのある照明があることにより部屋の雰囲気が柔らかくなった。

囲炉裏部屋
茶の間だったが、板をはり替えるために畳をはがした所、掘りごたつが見つかり、それを囲炉裏として活用し、今では、地域の方との交流の場になっている。

掛け時計
地域の方からお預かりした明治初期から大正にかけて製造された時計。

岩室甚句

お茶の会
お茶の先生をお呼びしてのお茶と和室の関係についての講演会の様子。

講演会
まちづくりの活動をされている建築士をお招きした講演会